

2 小学校第5学年

(2) 社会

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(2) 社会

問題の構成とねらい

- ・ 社会科の理解力、思考力、判断力に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 写真や地図、グラフ、図などの様々な資料を使って活用する能力をみたり、記述式の問題では児童の多様な考え方や態度、表現力をみる問題とした。
- ・ 問題の構成については [1] ~ [3] までは第3学年 [4] ~ [8] までは4学年の内容を中心に、[9] ~ [11] までは第5学年の内容を中心に構成し、特定の学年や分野等に偏らないように配慮した。

平均点 69.1

小問ごとのねらいと正答率

大問	小問	ね ら い	観点	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較	
[1]	1	地図から、市の特徴をよみとることができる。	思・判	65.8	76.1	80			
	2	地図上での方角を理解し、活用できる。	技・表		54.3	70		H15	
	3	(1)	地図中の基本的な地図記号を理解している。		知・理	48.7	70		
		(2)			知・理	75.8	80		H15
		(3)			知・理	60.6	80		
4	定規を活用し、縮尺を参考にして、実際の距離を導き出すことができる。	技・表	73.6	75		H15			
5	市町村の様子を調べる方法を考えることができる。	思・判	71.6	70					
[2]	1	販売の仕事に携わっている人々の工夫について理解している。	知・理	76.9	79.6	80			
			知・理		76.1	80			
2	販売の仕事に携わっている人々の工夫について、説明することができる。	思・判	79.4	80					
[3]	1	(1) 人々の様々な生活の様式が大きく変化してきていることを理解している。	知・理	90.1	96.3	90			
			知・理		95.8	90			
	2	資料を参考にしながら、人々のくらしの変化や工夫をよみとることができる。	思・判		77.8	80			
			思・判		96.9	85			
[4]	1	(1) 災害から人々の安全を守る身の回りの施設について理解している。	知・理	76.2	94.3	90			
			知・理		93.5	90		H15	
			知・理		95.9	95		H15	
			思・判		64.5	70			
	2	(1) 災害及び事故に対処するための関係諸機関の働きや体制について理解し、考えることができる。	思・判		38.5	70			
			思・判		84.0	90			
			思・判		62.8	80			
			思・判		85.3	80			
[5]	1	(1) 飲料水の確保のための対策や事業について理解している。	知・理	73.4	83.9	80			
			知・理		38.7	65		H15	
	2	(1) 資料から水の使用量と人口の変化のかかわりについてよみとることができる。	技・表		64.6	65		H15	
			技・表		92.2	80			
	3	(1) 廃棄物の処理と自分たちの生活とのかかわりについて考えることができる。	思・判		84.4	80			
			思・判						
[6]		宮崎県の発展に尽くした郷土の偉人について理解している。	知・理	47.3	47.3	65		H15	
[7]	1	(1) 宮崎県の市町村の数について理解している。	知・理	53.0	36.6	65			
			思・判		50.6	70			
	2	(2) 宮崎県から見た太平洋の位置について、地図をもとに確認することができる。	知・理		52.8	70			
			知・理		49.4	70			
3		自分の住んでいる市町村の位置を理解している。	知・理	71.3	70				
			知・理	57.3	70				
[8]		宮崎県の特徴について、グラフからよみとることができる。	思・判	66.7	88.9	70			
			思・判		73.6	70			
			思・判		55.5	70			
			思・判		48.6	70			
[9]	1	資料から米の生産量と消費量の変化をよみとることができる。	思・判	77.0	84.0	80			
			思・判		82.3	80			
			知・理		60.4	70			
			知・理		86.4	70			
2	資料をよみとることができるとともに、米作りについて理解している。	知・理	72.1	65					
[10]	1	(1) 日本の食料生産に関する資料をよみとり、事象を明らかにすることができる。	技・表	83.7	96.8	90			
			技・表		97.1	90			
2	日本の食料生産の現状を理解し、今後の日本の食料生産及び確保について自分の考えを表現することができる。	思・判	57.3	60		H15			
[11]	1	とる漁業のそれぞれの違いや特徴を理解している。	知・理	71.7	80.7	70		全国	
	2	(1) 200海里の漁業制限について理解している。	知・理		65.4	70		全国	
			思・判		50.9	70		全国	

思・判(社会的な思考・判断)、技・表(観察・資料活用の技能・表現)、知・理(社会的事象についての知識・理解)

1 正答率 (65.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	76.1		ア(10.0) イ(7.6)
2	イ	54.3	H15 70.6 類似	ウ(11.4) ア(8.8) エ(8.8)
3	(1) 消防しょ	48.7		市役所(7.2) 無解答(18.4)
	(2) 工場	75.8	H15 77.8 同一	店(2.4) 無解答(7.6)
	(3) 寺院(お寺)	60.6		神社(9.8) 無解答(3.6)
4	4 0 0	73.6	H15 88.2 類似	8 0 0 (2.0)
5	(例) 市役所に行って調べる。 図書館へ行って調べる。 副読本で調べる。 身近にいるくわしい人に 聞く。 インターネットで調べる。	71.6		地図, 地図帳(1.4) 無解答(5.2)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、地域の特徴や地図上の方位・距離、地図記号など、地図のよみとりについての問題、及び調べ学習における「調べる方法」についての問題である。

正答率をみると、方位や地図記号、縮尺などについての基本的な事項についての問題が、昨年と比べると低かった。特に方位については、八方位に関する出題であったが、昨年の四方位に比べ、正答率が低かった。また、3の地図記号に関しては、消防署・寺院の正答率が特に低く、昨年度に続いて出題された「工場」の記号についてもやや低くなっている。4の縮尺をもとに実際の距離を求めることや、5の調べ学習の方法については、ほぼ理解できていると考えられる。

そこで、指導に当たっては、地図を積極的に活用し、地図記号や方位などの基本的な事項を、繰り返し指導する機会を設ける必要がある。特に、地図記号については、その成り立ちや意味を考えさせたり、児童の住んでいる地域の白地図に、地図記号を書き込ませる活動を取り入れたりする。

2 正答率 (76.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	イ	79.6	ア(7.0) ウ(3.8)
	ア	76.1	ウ(7.0) イ(6.0)
	ウ	79.4	イ(5.4) ア(4.6)
2	ちらしなどをくばる。 広いちゅう車場をつくる。	72.3	無解答(4.8)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、スーパーマーケットにみられる販売の工夫について理解しているかをみる問題である。

正答率をみると、スーパーマーケットで働く人々の工夫が、買う人の願いと結び付いていることについて、理解が十分であるとはいえない。これは、働く人々の仕事の工夫のようすを、直接スーパーマーケットなどで目にする機会が少ないからではないかと思われる。自分たちの生活を支えている店の裏側での具体的な工夫までは、十分理解できていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、消費者である自分や家族の人たちの願いについて話し合わせ、それらの願いに働く人々がどのように応えているかという視点で見学や調査、作業的な活動を取り入れ、店で働く人々の様々な工夫について、具体的に学習させることが必要である。

3 正答率 (90.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1) オ ウ	96.3	ウ オ(0.6)
	(2) エ イ	95.8	イ エ(0.8)
2	油	77.8	まき(12.2)
	電気	96.9	まき(1.2)
	くふう	83.5	変化(6.6)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、地域の人々の生活様式が、およそ100年ぐらいの間にもどのように変わってきたかについて理解しているかをみる問題である。

正答率は比較的高く、道具の変化などの基本的事項は、ほぼ理解できていると考えられるが、昔の道具のしくみについての理解は十分とは言えない。

そこで、指導に当たっては、博物館や郷土資料館などで昔の道具を見学したり、学校の図書室で調べたり、地域に住む高齢者や保護者から生活に使用した古い道具の使い方などを教わったりするなど、調べ学習や体験活動を積極的に取り入れる必要がある。これらの学習により、過去の生活における人々の知恵や工夫に気付かせ、現在の自分たちの生活は祖先の努力の上に成り立っているということに関心をもたせることができると考える。

4 正答率 (76.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) ア	94.3		ウ(3.8)
	(2) エ	93.5	H15 97.6 同一	ウ(3.2)
	(3) イ	95.9	H15 90.0 同一	エ(1.0)
2	(1) ウ	64.5		イ(14.4) ア(4.2)
	(2) イ	38.5		ウ(27.4) ア(5.2)
	(3) ア	84.0		イ(6.6)
	(4) イ	62.8		ア(14.8) ウ(7.2)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、災害や事故から人々の安全な暮らしを守る消防設備や、関係機関に従事している人々の働きや体制について理解しているかをみる問題である。

1の身の回りの消防設備については、昨年度と比較すると(2)の非常口のはたらきはやや低くなり、(3)の消火器のはたらきについては高くなっている。いずれも高い正答率を示しており、よく理解できていると考えられる。2の関係機関に従事している人々の働きや体制については、正答率が低く、誤答例をみると、警察署の働きと消防署の働きについて混同している。特に、火事が起きたときの、関係機関の連携や役割の分担についての理解が、不十分であると考えられる。また、けが人や病人の救急車で輸送や日常の防火活動への努力や工夫など、消防署のはたらきの中で火災を消す以外のはたらきが十分理解できているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、実際に施設見学を行う際に、調べる視点を明確にさせることや、働く人々の努力や工夫について着目させて、施設面だけでなく、関係機関の協力の様子についても理解させる必要がある。また、関係機関の連携体制については、図で表現させたり、自分の考えや思いを書かせたりして、身近な生活と関連付けながら学習内容の定着を図ることが大切である。

5 正答率 (73.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	85.3		オ(3.6) 記号以外(3.0)
	オ	83.9		イ(3.6) 記号以外(2.8)
2	7	38.7	H15 59.7 類似	6(25.4) 4(3.2)
	人口	67.9	64.6 H15 80.8 類似	水の使用量(11.0) 水(4.8)
	水の使用量	61.2		人口(16.0) 水(5.0)
3	(1) イ	92.2		ア(2.4) ウ(2.0)
	(2) ア, ウ	84.4		エ(3.6) イ(2.6)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、1と2は飲料水の確保について、需要の増加に対して水源を確保するための森林保全との関係を理解しているかをみる問題、3は廃棄物の減量やリサイクルについて理解しているかをみる問題である。

1は、飲料水確保のための森林のはたらきについての問題であるが、おおむね理解できていると考えられる。2は、資料から水の使用量と人口の変化の関わりについてよみとる問題である。2の は、昨年度よりも正答率が低かった。これは、グラフを比較する際に は の何倍という見方ができていないことや、適切なグラフの活用が不十分であったことなどが原因と考えられる。2の については、グラフをよみとり、それをもとに思考・判断する力が不十分であることが分かる。3については、ごみの減量化やリサイクル活動に関しておおむね理解できていると考えられる。

そこで、指導に当たっては、資料のよみとりだけではなく、よみとったことから何が分かるかを考えさせ、発表の場を設定する必要がある。また、一つの資料からだけでなく、他の資料と関連させながら考えさせ、資料をよみとる力や考える力を育てることが大切である。読解力や計算力については、他教科との連携を図った指導が必要である。また、見学や調べ学習を積極的に取り入れ、分かったことを図式化したり、グラフ化したりする活動を通して、自分たちの生活との関連を理解させる必要がある。

6 正答率 (47.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
	小村寿太郎, 石井十次 岩切章太郎など	47.3	H15 33.3 同一	無解答(25.6)

考察

第4学年の学習を中心とした問題で、地域の人々の生活の向上に尽くした先人について理解しているかをみる問題である。

昨年度と比べると正答率は高くなっているが、無解答が多い。誤答例としては、総理大臣の名前などがあり、郷土の偉人を身近な存在として認識していない傾向がみられる。

そこで、指導に当たっては、郷土の偉人についての学習を積極的に行う必要がある。自分の住んでいる地域や近隣の市町村の偉人について取り上げたり、県版の副読本や「ひむか学」(<http://www.pref.miyazaki.jp/kyouiku/kikaku/himukagaku/>)等を活用したりして、児童が主体的に調べる学習を充実させる必要がある。

7 正答率 (53.0%)

問題番号		標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1)	4 4	36.6	4 5 (10.2) 無解答(6.4)
	(2)	東	50.6	西(10.4) 南(6.4)
2		(地図中に自分の住んでいる市町村をとらえて鉛筆でぬる。)	52.8	無解答(20.4)
3		エ	49.4	ア(20.2) イ(5.6)
		イ	71.3	エ(7.0) ウ(4.6)
		ア	57.3	エ(15.2) イ(4.8)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、本県の位置や市町村の数など基本的な事項について理解しているかをみる問題である。

1の(1)は、正答率が低かった。誤答例を見ると、45や43など正解に近い数が多い。また、1の(2)も正答率が低かった。誤答例では西や南と答えたものが多く、地図上の方位の認識が不十分であると考えられる。2の問題では無解答が多かった。このことから、自分の住んでいる市町村の位置を地図上で理解できていない児童が約半数いる。3では隣県の位置について、3の の熊本県以外は正答率が低かった。

そこで、指導に当たっては、学習の中で地図帳を積極的に活用して、地図に慣れる活動を多く取り入れる必要がある。自分の住んでいる市町村や本県について、周囲との位置関係を把握させながら白地図等へ書き込ませるなどの作業を行わせ、地理的位置等を正しくとらえさせる指導が必要である。

8 正答率 (66.7%)

問題番号		標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1		オ	88.9	カ(2.6)
		キ	73.6	ク(10.8)
		ア	55.5	ク(11.8) キ(7.6)
		エ	48.6	ウ(19.8)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、本県の大まかな特色を理解しているかをみる問題である。

は両方とも正答率が高く、これらについてはグラフや図をよくよみとっている。それに比べて、は正答率が低かった。今後は、グラフや図から特徴をつかむ力をさらに育てていくことが必要である。

そこで、指導に当たっては、グラフや図をよみとる学習の際に、口頭で答えさせるのではなく、自分の考えを書かせて、自分の考えをもとに話し合わせる中で、十分に思考を深めさせ、発表させるような指導が大切である。

9 正答率 (77.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	ウ	84.0	ア(2.2)
	キ	82.3	イ(5.0)
	カ	60.4	ア(18.2) ク(5.6)
	工	86.4	オ(3.8)
2	(例) たい肥を使う農家がふえた。 農薬をまく回数をへらした。 新しい品種を開発した。	72.1	薬を使う(1.0) ひりょうを使わない(0.8) 無解答(5.8)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、我が国の米づくりについてグラフをよみとり、米をつくるための工夫についての理解をみる問題である。

1は、正答率をみると資料のグラフの変化や事象をよみとる力はほぼ身に付いてきているが、の誤答例と正答率の低さから、基本的な語句の意味を正確に理解できていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、資料やグラフをよみとる学習をするとともに、米作りに係わる人々の努力や工夫について、地域の人々から直接話を聞くなどの調べ学習を取り入れ、調べたことをもとに考える場を設定し、人々の願いや工夫に気付かせる指導が必要である。

10 正答率 (83.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 米	96.8		
	(2) 大豆	97.1		
2	(例) 国内の自給のわりあいを高める。 世界じゅうからの輸入をふやす。	57.3	H15 42.7 同一	輸出する(0.4) 転作をすすめる(0.2) 無解答(8.2)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、我が国の食料事情をグラフからよみとり、これからの食料確保のための方策について、自分の考えを表現する力をみる問題である。

1については、正答率が高く、グラフのよみとりが正確にできていると言える。2の正答率については、昨年と比べ上昇しているものの、食料を確保していくための具体的な今後の方策について、自分の考えを表現する力が十分身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、我が国の食料確保について、調べ学習などを通して課題を自分の身近な問題としてとらえさせ、自分の考えを発表させる場の設定を行うなど、主体的に課題を見つけ、解決していこうとする態度を養う指導が必要である。

11 正答率 (71.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	75.1	80.7 全国 77.9 同一	ウ(5.8) ア(5.6)
	ウ	87.6		イ(5.2)
	ア	79.4		イ(6.0)
2	(1)	65.4	全国 54.1 同一	(10.8) (7.8)
	(2)	(例) 計画的に生産でき 収入を安定させるた め。 へってきた生産量 をふやすため。 とりすぎによって 資源をへらさないた め。	50.9 全国 54.0 同一	小さな魚はとらないようにする (5.0) 無解答(8.6)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、日本の漁業の特色や傾向を、資料やグラフからよみとる力をみる問題である。

1の「とる漁業」についての理解は、全国よりやや高い正答率であったが、誤答例から、3つの漁業形態を、正確に理解できていないと考えられる。2の(1)「200海里の漁業制限」については、全国よりかなり高い正答率であることから、日本の遠洋漁業の生産量の減少と200海里の漁業制限との関連についてはかなり理解できていると考えられる。(2)の「社会的事象の共通点を考えることができるか」についての問題は、全国と比べるとやや低い正答率であった。水産資源の確保という視点から、2つの漁業形態で働く人々のとりくみの共通点が理解できていないため、無解答や正解からかけはなれた解答が多かったのではないかと考えられる。自分の考えを記述する問題では、正答率が低下する傾向がみられる。

そこで、指導に当たっては、漁業に従事する人々の水産資源の保護や育成についての取組や、これからの漁業の在り方について、調べ学習を行わせたり、グラフや資料の変化から社会的事象をよみとらせたりする指導が必要である。単に語句を覚えさせるのではなく、社会的事象を理解させ、自分の考えを発表させるような場面を設定し、日頃から話し合い活動を充実させるなどの指導が望まれる。

